

# 「保健主事に関する意識調査」を通した保健主事の現状と課題

——学校保健活動と教科「保健」との関わりを目指して——

国 吉 恵 一  
藤 原 靖 浩

## 要 旨

新型コロナウイルスの感染拡大等の新たな健康課題が散見される今だからこそ、学校現場における保健主事の実態を改めて調査し、学校保健活動や教科「保健」等の保健主事の職務に深く関わる取り組みの促進を目指すことが必要である。本研究では「保健主事の状況に関する調査」を用いて、学校組織における保健主事の実態調査を試みる。そして、今後の保健主事のあり方を検討し、学校保健活動や教科「保健」等、保健主事の職務に関連する取り組みの促進を目指すための基礎資料とすることを目指した。アンケート調査の結果、高等学校の保健主事が抱えるさまざまな課題が明らかにすることができた。

キーワード：保健主事，学校保健，意識調査，学校保健活動，教科「保健」

## 1. 問題と目的

児童生徒を取り巻く社会状況の変化に伴い、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスに関する課題、性に関する問題行動、薬物乱用等の課題が指摘されて久しい。このような現代的な健康課題の解決は、学校教育の大きな目的の一つにもなっている。また、新型コロナウイルスという明確な治療法が確立されていない感染症に対して、感染拡大防止の対策をとった上で授業や学校行事を行わなければならないという状況は、学校現場に新しい健康課題をもたらすこととなった。

文部科学省は『現在の教育に関する主な課題』において、こうした現代的な健康課題への対応では「校内組織体制づくりや学校と地域の医療機関等との連携の推進が必要」<sup>1)</sup>であると指摘し、学校全体で健康課題の解決に取り組むことが期待されている。そのような中、学校で健康に関する教育活動を行う組織の中心になることが期待されている存在が「保健主事」である。保健主事は、法律上、学校保健と学校全体の健康に関する教育活動の調整や学校保健計画の作成、学校保健に関する組織活動の推進等の中心となる教職員である。2008年1月の中央教育審議会答申『子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について』では、保健主事の役割について以下のようにまとめられている。

「保健主事は、学校保健と学校全体の活動に関する調整や学校保健計画の作成、学校保健

に関する組織活動の推進（学校保健委員会の運営）など学校保健に関する事項の管理に当たる職員であり、その果たすべき役割はますます大きくなっている。このことから、保健主事は充て職であるが、学校における保健に関する活動の調整に当たる教員として、すべての教職員が学校保健活動に関心を持ち、それぞれの役割を円滑に遂行できるように指導・助言することが期待できる教員の配置を行うことやその職務に必要な資質の向上が求められている。」<sup>2)</sup>

学校保健は「学校における保健教育と保健管理」<sup>3)</sup>と定義され、それらの活動を適切に行うことによって、児童生徒や教職員の健康を保持増進し、心身ともに健康な国民の育成を目指して行われる活動である。そして、保健主事には学校保健や学校全体の活動に関する調整等ができるような体制づくりや、働きかけを行うマネジメントの能力が求められている。

1995年以降、学校教育法施行規則第45条3項<sup>4)</sup>の法律の改正によって、指導教諭、教諭以外にも養護教諭が保健主事となることができるようになった。この法律の改正では、専門職である養護教諭が、学校保健活動の中心となることで、より一層、活動が促進されることを期待されていた。こうした中で、2009年の日本学校保健会による『保健主事研修プログラム』<sup>5)</sup>、2010年の文部科学省による『保健主事のための実務ハンドブック』<sup>6)</sup>、2012年の日本学校保健会による『保健主事のためのマネジメント事例集』<sup>7)</sup>等、保健主事の資質・能力の向上を目指した書籍が刊行され、保健主事に求められる資質・能力は多様化していった。この点については、2014年度に実施された『保健主事に関する状況調査報告書』でも指摘されており、保健主事に今後向上が期待される資質・能力として、組織形態・組織づくりの理解と方法、組織運営の方法等が挙げられており、ミドルリーダーとしてのリーダーシップの発揮については大きな課題の1つになっていた<sup>8)</sup>。しかしながら、2014年度以降は保健主事に関する状況調査も継続的に行われておらず、保健主事の学校現場における実態すら曖昧な状況になっている。

さらに、現在は保健主事に関する研究そのものが減少傾向にある。論文検索サイトCiNiiで「保健主事」を検索した結果、これまでに刊行された保健主事に関する研究論文等は77件となっている。1950年代には6件、1960年代には3件、1970年代には11件、1980年代には10件と徐々に保健主事に関する研究が行われ、1990年代には教育関係の雑誌で保健主事の特集が掲載されたことなどもあり、16件が確認できた。2000年から2010年までには10件の研究が刊行され、毎年のように保健主事に関する研究が継続されてきたことが伺える。しかしながら、2012年以降に刊行された「保健主事」に関する内容のものは、2015年の学校保健に関する政策について述べたものが1件<sup>9)</sup>、2018年の危機管理において保健主事及び学校保健委員会が果たす役割をまとめたものが1件<sup>10)</sup>、2019年の危機管理における保健主事の最善の行動についてまとめたもの<sup>11)</sup>、そして、養護教諭の職務内容について記述されたもの<sup>12)</sup>の2件、計4件に留まっている。これを見ても、2012年を境に、保健主事に関する研究はほとんど進めら

れていないことが分かる。その要因の1つには、2011年3月11日に起こった東日本大震災が挙げられる。日本に甚大な被害をもたらした震災は、学校保健のイメージを学校における安全管理（防災、防犯）に偏らせることになった。その結果、教科「保健」や総合的な学習の時間における保健学習や、学級活動、児童会・生徒会活動における保健指導、学校環境の衛生的管理や児童生徒の健康観察・相談といった保健管理等の学校保健に関する保健主事の役割は、ほとんど注目されることがなくなったのである。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大による学校環境の衛生的管理や児童生徒の心身及び生活の管理を含む保健管理に注目が集まっている。このような新たな健康課題が散見される今だからこそ、学校現場における保健主事の実態を改めて調査し、今後の保健主事のあり方、学校保健活動や教科「保健」等の保健主事の職務に深く関わる取り組みの促進を目指すことが必要である。そこで、本研究では「保健主事の状況に関する調査」を用いて、学校組織における保健主事の実態調査を試みる。そして、今後の保健主事のあり方を検討し、学校保健活動や教科「保健」等、保健主事の職務に関連する取り組みの促進を目指すための基礎資料とすることを旨とする。

## 2. 研究方法

### (1) 調査方法

本研究で用いる「保健主事の状況に関する調査」は筆者が2002年度の修士論文『保健主事の研修の現状と課題に関する研究』において作成した調査用紙を基本として、保健主事の現状把握に関連した項目を抽出して、作成したものである。(図1、図2)

質問紙の内容は、質問1から質問6が勤務校の校種（全日制高校、定時制高校、特別支援学校、その他の4項目）、性別、校内の主たる職務（保健体育科教諭、養護教諭、管理職、その他の4項目）、教員としての経験年数、保健主事としての経験年数、主任としての経験年数を尋ねるものである。質問7から質問9は、保健主事の研修会の必要性の有無、研修会の希望形式、研修会のテーマについての内容であった。また、質問10から質問15は、保健主事の職務遂行に対する管理職や他の教職員、学校医、PTA・地域住民からの理解に関する内容であり、質問16、質問17、質問18は保健主事自身の活動のしやすさ、リーダーシップの発揮等に関する内容であった。質問19から質問24は、保健主事としての自己評価であり、最後に学校保健活動の活性化に向けた自由記述を求めた。質問7、質問10から質問23では5件法、質問8と質問9は自由選択、質問24は自由記述による回答の形式をとっている。5件法による回答は「①とてもそう思う、②ややそう思う、③どちらとも言えない、④ややそう思わない、⑤とてもそう思わない」を基本とした。

## (2) 調査対象

本調査は、千葉県高等学校保健主事会の総会内で実施された「保健主事の資質向上のための研修会」において質問紙を配布し、研修会の参加者 78 名を対象に行われた。質問紙は研修会終了後に配布し、当日回収した。当日の研修会は「今、保健主事として何を理解して、どう行動すべきか」という内容で実施されていた。

**保健主事の状況に関する調査**

今日、児童生徒の心身の健康問題は複雑多岐化しており、学校保健の充実が一層強く望まれています。学校保健活動の管理運営にあたる保健主事の役割は益々重要となり、その資質・能力を高めるための研修の充実は急務と見られます。本調査は、今日的に求められる保健主事の使命や役割、実際の活動状況等について、その現状を明らかにし、今後の組織的な学校保健活動の推進に資することを目的としています。

なお、本調査の結果は、研究目的以外には使用せず、データの入力後は適切な場所で一定期間保管した後、個人情報等の漏出等がないよう適正に処理させていただきます。

京都産業大学 現代社会学部 准教授 国吉恵一  
連絡先: knyoshi@cc.kyotei-u.ac.jp

- あなたの勤務校は  
①全日制高校 ②定時制高校 ③特別支援学校 ④その他( )
- あなたの性別は ①男 ②女 ③その他
- あなたが現在勤務する学校での主たる職務は  
①保健体育科教諭 ②養護教諭 ③管理職 ④その他の職務( )
- あなたの教員の経験年数は( )年 \*初年の方は「1年」とご回答ください
- あなたの保健主事の経験年数は( )年 \*初年の方は「1年」とご回答ください
- あなたの保健主事を離れた主任としての経験年数は ( )年
- 保健主事の研修会は必要だと思いますか？  
①とても必要である ②必要である ③どちらともいえない  
④あまり必要でない ⑤まったく必要でない
- 今後、保健主事の研修会を行う場合、実施して欲しい形式はどれですか？  
①講義 ②シンポジウム ③大発表会 ④研究協議 ⑤演習
- 今後、保健主事の研修で取り上げて欲しいテーマを3つまで選んでください。  
ア、健康の考え方に関するテーマ      イ、生活習慣病や生活行動に関するテーマ  
ウ、喫煙・飲酒に関するテーマ      エ、薬物乱用に関するテーマ  
オ、感染症に関するテーマ      カ、精神の健康に関するテーマ  
キ、学校安全に関するテーマ      ク、生涯の各段階の健康に関するテーマ  
ケ、制度や機関との連携に関するテーマ      コ、環境の汚染と健康に関するテーマ  
サ、食品と健康に関するテーマ      シ、労働と健康に関するテーマ  
ス、その他( )
- 管理職は保健主事の職務遂行に対して協力的ですか  
①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも思えない  
④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない
- 養護教諭は保健主事の職務遂行に対して協力的ですか  
①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも思えない  
④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない ⑥養護教諭なのであてはまらない
- 主任(教務、生徒指導、総務、平等)は保健主事の職務遂行に対して協力的ですか  
①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも思えない  
④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない ⑥自身が主任なのであてはまらない

図 1：保健主事の状況に関する調査 (1)

13. 総じて、その他の教職員は保健主事の職務遂行に対して協力的ですか  
 ①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない  
 ④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない

14. 学校医・学校歯科医・学校薬剤師は保健主事の職務遂行に対して協力的ですか  
 ①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない  
 ④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない

15. PTAや保護者、地域住民は保健主事の職務遂行に対して協力的ですか  
 ①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない  
 ④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない

16. あなたの学校は保健主事として活動しやすい状況にありますか  
 ①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない  
 ④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない

17. あなたの学校では、保健主事が学校保健活動でリーダーシップを発揮できていると見えますか  
 ①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない  
 ④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない

18. 児童・生徒自身の学校保健に対する意識は高いと思いますか  
 ①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない  
 ④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない

19. 自分自身の保健主事としての努力不足を感じていますか  
 ①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない  
 ④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない

20. あなたは保健主事の職務を自分なりに理解していますか  
 ①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない  
 ④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない

21. あなたは保健主事として適任だと思えますか  
 ①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない  
 ④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない

22. あなたは保健主事の任命期間が1年間の単年度ごとでは短いと思えますか  
 ①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない  
 ④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない

23. あなたは保健主事になってから、職務内容に不安を感じたことがありますか  
 ①とてもそう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない  
 ④ややそう思わない ⑤とてもそう思わない

24. 今後、学校保健活動を活性化していくために、必要なことや課題は何だと思いますか。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

図2：保健主事の状況に関する調査（2）

### (3) 倫理的配慮

質問紙の配布は、千葉県高等学校保健主事会の許可を得て行われ、質問紙の内容は事前に会の確認を受けている。また、当日の参加者には口頭で、本調査の目的及び本調査の結果を研究目的以外に使用しないこと、個人の特定は行われないこと等を説明し、同意を得た。

### 3. 結果

分析は SPSS を用いて行った。質問 1 から質問 3 の結果は、次の表のとおりである。

表 1：勤務校、性別、主たる職務

質問 1	度数	質問 2	度数	質問 3	度数
全日制	74	男性	53	保健体育	44
定時制	4	女性	25	養護教諭	2
				その他の教科	32

全体で回答者は 78 名であり、全日制の高等学校に勤務している教師は 74 名、定時制に勤務している教師は 4 名となっていた。また、男性 53 名、女性 25 名であり、保健体育の教師は 44 名、養護教諭は 2 名、その他の教科は 32 名であった。

表 2：性別×主たる職務

	保健体育	養護教諭	その他の教科
男	38	0	15
女	6	2	17
合計	44	2	32

保健主事を任されている教師は男性が多い傾向にある。特に、保健体育科においては、男性の教師が保健主事になっていることが確認できた。

表 3：教員の経験年数×保健主事の経験年数

		保健主事の経験年数				
		初年	2～5 年	6～10 年	それ以上	合計
経験年数	1～5 年	3	2	0	0	5
	6～15 年	8	1	3	0	12
	16～25 年	4	1	0	0	5
	それ以上	14	35	6	1	56
	合計	29	39	9	1	78

本調査では、フェイスシートの質問 4「教員の経験年数」を 1～5 年を 1、6～15 年を 2、16～25 年を 3、それ以上の経験年数を 4 として整理している。質問 5「保健主事の経験年数」についても初年を 1、2～5 年を 2、6～10 年を 3、それ以上を 4 に分類した。質問 6「保健主事を除いた主任の経験年数」は、初年を 1、2～5 年を 2、6～10 年を 3、それ以上を 4 に分類している。この分類を行った理由として、学校現場では初任から 5 年目が 1 つの区切りとして認識されていることが挙げられる。また、6 年から 15 年の経験年数は中堅教員として学校の主たる役職を担う時期であり、25 年の区切りでは管理職の道を選択するか、現場の教員として定年退職を迎えるかの選択を行う時期と考えられるからである。表 3 の結果を見ると、保健主事の経験年数は 1 年から 5 年以内に集中していることが確認された。

表4：教員の経験年数×保健主事以外の経験年数

		保健主事以外の経験年数				合計
		初年	2～5年	6～10年	それ以上	
経験年数	1～5年	4	1	0	0	5
	6～15年	9	3	0	0	12
	16～25年	4	1	0	0	5
	それ以上	11	14	21	10	56
	合計	28	19	21	10	78

これは教員の経験年数と保健主事以外の経験年数をクロス集計した結果のグラフである。表4の結果を見ると、保健主事以外の主任を経験している年数は、25年以上の経験を積んだ教員が多くなっていることが分かった。表3、表4の結果を見ると、他の主任の役職とは異なり、保健主事を長期に渡って担う教員は10%に満たないことが確認できた。

表5：研修会の必要性×希望する研修会の形式

		研修会の形式					合計
		講義	シンポジウム	実践発表	研究協議	演習	
研修会	とても必要である	5	0	1	0	1	7
	必要である	28	6	11	4	4	53
	どちらともいえない	11	2	2	0	1	16
	あまり必要ではない	1	0	0	0	0	1
	合計	45	8	14	4	6	77

表5は、質問7「保健主事の研修会は必要だと思いますか？」と質問8「今後、保健主事の研修会を行う場合、実施して欲しい形式はどれですか？」のクロス集計の結果である。

研修会の必要性については、16名が「どちらともいえない」、1名が「あまり必要ではない」と回答している。また、研修会の形式では、講義や実践発表を希望する意見が多かった。

表6：保健主事の研修で取り上げて欲しいテーマ

職務内容	薬物乱用防止	喫煙・飲酒	性感染症	カウンセリング
35	9	10	11	24
学校安全・危機管理	健康	家庭・地域との連携	マネジメント	その他
35	31	20	13	4

質問9では「今後、保健主事の研修で取り上げて欲しいテーマ」を3つまで選択することになっていた。この結果を見ると、多くの保健主事は職務内容、学校安全・危機管理、健康に関心があることが分かった。また、カウンセリングや家庭・地域との連携についても十分な研修が必要であることが確認できた。

次の質問10から質問15は、保健主事が職務を遂行するための校内環境が十分に整備されているかどうかを明らかにするための質問である。

表7：保健主事の職務遂行への協力の有無

		度数					
		管理職	養護教諭	主任	その他	学校三師	PTA
協力の有無	とてもそう思う	18	47	12	8	8	3
	ややそう思う	25	25	25	26	32	17
	どちらとも言えない	27	5	34	35	31	49
	ややそう思わない	6	0	3	4	2	2
	とてもそう思わない	1	0	3	1	1	3
	当てはまらない		1	1	1		

表7は、管理職（質問10）、養護教諭（質問11）、教務・生徒指導・総務・学年等の主任（質問12）、その他の教職員（質問13）、学校医・学校歯科医・学校薬剤師（質問14）、PTA・保護者・地域住民（質問15）がそれぞれ保健主事の職務遂行に対して協力的かどうかを示している。

質問10の結果を見ると、協力的な管理職は43件、全体の55%になっていた。「どちらとも言えない」を否定的な意見に捉えると、45%、およそ半数の管理職が非協力的である結果になっている。質問11の結果を見ると、協力的な養護教諭は72件、全体の92%という高い値を示している。残りの8%についても、「どちらとも言えない」または「自分自身が養護教諭であるため当てはまらない」という回答であり、ほとんどの養護教諭は保健主事の職務遂行に協力的であると言える。質問12の結果を見ると、教務・生徒指導・総務・学年等の主任は37件、47%が協力的である。「どちらとも言えない」の回答が34件、43%となっており、非協力的な主任は6件、8%となっている。

質問13の結果を見ると、その他の教職員、つまり一般の教職員は34件、43%が協力的である。質問14の結果を見ると、学校医・学校歯科医・学校薬剤師、いわゆる学校三師は、40件、51%が保健主事の職務遂行に協力的である。質問15の結果を見ると、PTA・保護者・地域住民は、20件、25%が保健主事の職務遂行に協力的である。「どちらとも言えない」の割合も49件、62%と高くなっている。

表8：保健主事の活動状況

		度数		
		活動のしやすさ	リーダーシップ	児童生徒の意識
現状	とてもそう思う	7	1	6
	ややそう思う	33	15	15
	どちらとも言えない	26	31	33
	ややそう思わない	8	17	16
	とてもそう思わない	0	10	4

質問16では「あなたの学校は保健主事として活動しやすい状況にありますか」と尋ねたところ、40件、51%が「活動しやすい状況にある」と回答した。「どちらとも言えない」が26件、33%、「活動しにくい状況にある」が8件、10%となっていた。質問17では「あなたの学校で

は保健主事が学校保健活動においてリーダーシップを発揮できていると思いますか」と尋ねたところ、16件、20%しか、リーダーシップを取っていなかった。

質問18では「児童・生徒自身の学校保健に対する意識は高いと思いますか」を尋ねた。21件、26%は「学校保健への意識が高い」と回答していたが、4分の1程度の児童生徒が学校保健への高い意識をもっている反面、4分の3、過半数を超える生徒たちにとって学校保健はそれほど重要なものであるとは認識されていないことが分かった。

ここまでが学校内外において保健主事を取り巻く状況と保健主事の職務遂行に関わる質問内容であった。次に、保健主事を務める教員自身が保健主事としてのあり方をどのように捉えているかを見ていきたい。

表9：保健主事としての自己理解

		度数				
		努力不足	理解の度合い	適任	任命期間	不安
自己理解	とてもそう思う	11	2	0	9	8
	ややそう思う	26	25	17	26	36
	どちらとも言えない	29	25	32	33	21
	ややそう思わない	4	13	15	4	6
	とてもそう思わない	4	8	10	2	3

質問19は「自分自身の保健主事としての努力不足を感じていますか」を尋ねている。努力不足を感じている保健主事は、37件、47%となっている。質問20は「あなたは保健主事の職務を自分なりに理解していますか」を尋ねている。27件、34%が「理解している」と回答しているものの、21件、26%が「理解していない」と回答している。質問21は「あなたは保健主事として適任だと思いますか」と尋ねている。これに対して「とてもそう思う」と回答した人数は0件である。「ややそう思う」と回答した者も17件、21%に留まっており、32件、41%は「どちらとも言えない」、25件、31%は「そう思わない」と回答している。質問22「あなたは保健主事の任命期間が1年間の単年度ごとでは短いと思いますか」という質問では、35件、44%が「短いと思う」と回答している。また、質問23「あなたは、保健主事になってから、職務内容に不安を感じたことがありますか」という質問に対しては、44件、56%が「不安を感じたことがある」と回答している。なお、自由記述については、本研究では省略する。

## 4. 考察

### (1) 教科との関わり

表1、表2の結果に示されていたように、保健主事を任されている78名の教師の内、44名、56%の教師が保健体育の担当者であり、養護教諭は2名に留まっている。これは保健主事の職務内容が保健体育科教員の担当する教科「保健」の内容と重なる部分が多くなっていることと

関係していると考えられる。最初に述べたとおり、保健主事は学校保健活動の中心を担っている。そして、教科「保健」は、学校保健活動の1つである保健教育を担っており、傷害の防止や健康な生活、疾病の予防等、児童生徒の健康の保持増進を目指した活動になっており、他の教科以上に学校保健との関わりが深くなっている。以上の理由から、保健体育科の教員の多くが保健主事となっていると考えられる。

なお、養護教諭が保健主事を兼任できる状況の中、高等学校ではその傾向は見られない。養護教諭が保健主事を兼任することは、校内において学校保健活動に関わる人材を減少させることにつながるため、この傾向は肯定的に捉えられるべきであろう。

## (2) 保健主事の経験年数

表3の結果から分かる通り、保健主事には10年以上の経験者がほとんどいない。つまり、保健主事の多くは5年以内で別の役割を担う傾向にあると考えられる。

表4からは、保健主事以外の主任を経験している年数は、25年以上の経験を積んだ教員が多くなっていた。表3では、10年以上の経験年数が10名であったのに対して、表4では31名と約3倍になっている。これは、保健主事が学年主任や生徒指導主任のような学校内において重要であるとみなされている役職の「繋ぎ」のような立場として活用されている可能性を示している。ここで危惧されるべき点は、経験年数の長い教員が「他の主任の役職に相応しくない」「経験年数に比べて十分な能力がない」という否定的な理由で、いわゆる「充て職」として保健主事に任命されてしまっている可能性があることである。

筆者の長年にわたる教員経験からの私見ではあるが、保健主事から管理職になる人材は少ない。管理職になる教師の多くは、生徒指導主任や教務主任、または学年主任の経験者である。それゆえに、上記の10%の教師は、能力が発揮できないまま、長期間に渡って保健主事の役職に就いている人材であるとも考えられる。

## (3) 保健主事の研修

研修会の必要性については、16名が「どちらともいえない」、1名が「あまり必要ではない」と回答しており、全体の17名、21%が研修会に疑問を感じていることが示された。20%の教員が保健主事の職務に対して、向上心を抱いていないという結果は危惧されるべきものであろう。今後、保健主事会が教員対象の研修会を実施する上で、20%の教員にどのようにやりがいややる気を起こされるかを検討しなければならないだろう。また、保健主事の研修で取り上げて欲しいテーマは、職務内容、学校安全・危機管理、健康に関するものが多くなっていた。これまでにも、保健主事の研修は年に少なくとも一度以上行われてきているにも関わらず、職務内容に関する研修が希望されていることを見ると、保健主事の職務内容が多くの教員に十分理解されていない現状が伺える。10年以上の経験者が少なくなっていることを考えれば、職務

内容についての研修は継続的に行われなければならないということになるだろう。なお、学校安全や危機管理についてはどの学校においても喫緊の課題であり、防災教育が隆盛している時代の流れを反映していると考えられる。

#### (4) 保健主事の職務遂行と活動状況

管理職（質問 10）、養護教諭（質問 11）、教務・生徒指導・総務・学年等の主任（質問 12）、その他の教職員（質問 13）、学校医・学校歯科医・学校薬剤師（質問 14）、PTA・保護者・地域住民（質問 15）がそれぞれ保健主事の職務遂行に対して協力的かどうかを示している。管理職は学校全体の責任者である。それゆえに、保健主事の職務遂行はもちろん、あらゆる校内の活動に対して協力的であることが求められる。しかしながら、半数の管理職からは理解が得られていないという現状は保健主事の重要性が学校において認識されていないことにつながっている要因であろう。

ほとんどの養護教諭は、保健主事の職務に協力的であった。これは、養護教諭の職務内容が保健主事の職務内容と重なりが大きいことも要因にあると考えられる。また、教務・生徒指導・総務・学年等の主任は 37 件、47%が協力的であった。非協力的な主任は 6 件、8%となっていた。8%という割合は少なく思えるが、管理職からの協力が得られない以上に、各主任の協力が得られない状況はそもそも職務遂行が困難になる可能性が高い。この数値が養護教諭と同程度にまで改善されることを期待したい。

質問 13 の結果から、その他の教職員、つまり一般の教職員は 34 件、43%が協力的であった。学校全体で最も数が多いはずの一般の教職員からの保健主事の職務遂行への協力が半数しか得られていない状況は、保健主事にとって非常にしんどいと言わざるを得ない。これは学校全体で足並みを揃えて活動を行うことの困難さが確認できる結果となった。さらに、質問 14 の結果を見ると、学校医・学校歯科医・学校薬剤師、いわゆる学校三師は、40 件、51%が保健主事の職務遂行に協力的である。学校三師は学校外の人材であり、学校に直接的に関わりを持つ機会は少ない。それゆえに、保健主事の職務内容への理解が十分ではない可能性が考えられるが、今後、学校三師への積極的な関わりをもつことは「チーム学校」の組織づくりにも欠かすことができないものであろう。

質問 15 の結果から PTA・保護者・地域住民は、20 件、25%が保健主事の職務遂行に協力的である。「どちらとも言えない」の割合も 49 件、62%と高くなっているが、家庭・学校・地域の連携が未だに課題として挙がることの多い、学校において、4 分の 1 程度の PTA・保護者・地域住民から理解を得られていることは評価できるだろう。

質問 16 では「あなたの学校は保健主事として活動しやすい状況にありますか」と尋ねたところ、40 件、51%が「活動しやすい状況にある」と回答した。「どちらとも言えない」が 26 件、33%、「活動しにくい状況にある」が 8 件、10%となっている。活動のしやすさを感じている保

健主事は半数に留まっていることを考えると、学校の組織そのものが一枚岩として機能している学校は半分程度しかないということになる。現場経験のある教師の視点から考えれば、これは妥当な数字ではあると思われるが、保健主事の活動に関してはこの状況の改善が喫緊の課題であるとも言えるだろう。

質問 17 では「あなたの学校では保健主事が学校保健活動においてリーダーシップを発揮できていると思いますか」と尋ねたところ、ほとんどの保健主事はリーダーシップを取っていないかった。保健主事は、学校保健活動のマネジメントを行う中心的な役割を担っているはずであるにも関わらず、リーダーシップを十分に発揮できていないことは危惧される事態であろう。

質問 18 の児童生徒の学校保健に対する意識について、21 件、26%は「学校保健への意識が高い」と回答していたが、4 分の 1 程度の児童生徒が学校保健への高い意識をもっている反面、4 分の 3、過半数を超える生徒たちにとって学校保健はそれほど重要なものであるとは認識されていないことが分かった。児童生徒の意識の改善のためにも、保健主事の活動の充実が求められるだろう。

保健主事自身は、任命期間を単年度ではなく長期間に渡って任命するべきだと考えているにも関わらず、努力不足、理解が不十分、自らは適任ではない等の否定的な思考をもつ保健主事も決して少なくない。このような現状は周囲からの保健主事の職務内容への理解以上に、保健主事自身の意識改革も課題となっていることを示している。

#### (5) 保健主事自身の課題

保健主事が自分自身の努力不足を感じている割合は、37 件、47%となっており、周囲からの理解が充分ではないと回答した状況から考えると、「周囲からの理解が得られてないのは自分の努力不足である」と考えている保健主事が一定数いると考えられる。また、同時に保健主事の職務を十分に理解できていると回答した人の割合は 27 件、34%に留まっており、21 件、26%が「理解していない」と回答している。保健主事を拝命している者がそもそも職務内容を十分に理解していない、努力も十分ではないという現状があることは、学校保健活動そのものにとって大きな課題であると考えられる。

これに合わせて、質問 21 の「あなたは保健主事として適任だと思いますか」という質問に対して「とてもそう思う」と回答した人数は 0 件であった。「ややそう思う」と回答した者も 17 件、21%に留まっており、32 件、41%は「どちらとも言えない」、25 件、31%は「そう思わない」と回答している。この値は、保健主事の現状をはっきりと表しており、保健主事本人の意識そのものが低く、あらゆる活動において十分な自信をもって取り組めていないという状況を表している。

質問 22 「あなたは保健主事の任命期間が 1 年間の単年度ごとでは短いと思いますか」では、35 件、44%が「短いと思う」と回答している。また、質問 23 「あなたは、保健主事になってか

ら、職務内容に不安を感じたことがありますか」という質問に対しては、44件、56%が「不安を感じたことがある」と回答している。保健主事を取り巻く環境の改善だけでなく、保健主事自身の意識改善等も必要だと言えるだろう。

## 5. まとめと今後の課題

ここまでの結果を見ると、各学校において保健主事に任命される教職員の内、職務遂行への意識が高い者は決して多くないと考えられる。

学校組織において、今後、保健主事が果たす役割は大きくなる。2015年の谷藤らの研究でも、保健主事は学校保健活動のキーパーソンであり、「ミドルリーダーとしてのリーダーシップの発揮については今後の課題として大いに期待される」<sup>13)</sup>とされている。しかしながら、現状、保健主事はいわゆる「充て職」のような体制になっており、立場の改善や認知度の向上、任命期間の問題等、様々な課題があることが今回の調査から浮き彫りになった。このような状況を改善していくために、次のような改善策を提案したい。

### ①管理職による適切な人材の任命

管理職が保健主事の職務遂行に対して協力的であると回答した割合は、おおよそ半数に留まっている。これは半数の管理職が保健主事の職務内容を十分に理解していないことから生じる問題である。それゆえに、保健主事が学校内における重要な役職であるという管理職の意識は決して高いものではない。そのため、教職員を組織内のさまざまな役職に割り当てる際、管理職が有用な人材を保健主事に配置することは少ないと考えられる。そのような事態は、結果的に管理職が保健主事の職務遂行の後押しを十分に行わないことにつながっている。特に、先述の「充て職」のような保健主事の任命がある場合には、より一層、この理解は進まないことになる。学校内における生徒指導、教科指導等の重要性は十分に理解されるべきであるが、学校保健、保健主事の役割の重要性を再認識するべき時が来ているのではないだろうか。

### ②若手教職員の積極的な登用

今回の調査でも、対象者は教員の経験年数が10年を超える者が多かった。つまり、保健主事に若手の教職員を登用することは少ないと考えられる。保健主事が学校全体の学校保健活動のマネジメントをしなければならないことから、一定の経験を積んだ教職員を任命しようという考えが生じていると思われる。また、40代・50代の教職員が担当者に任命されたとしても、既存の学校保健活動をさらに盛り上げていこうという意識になることは困難であろう。そこで、若手教職員を積極的に登用し、主任等への登竜門として、保健主事を活用することも必要ではないだろうか。

### ③学校保健，保健主事に関する研修の充実

現在の学校における研修は，教科に関する内容や危機管理に関する内容のものが多くなっている。それは多くの教職員にとって，学校保健の活動以上に，教科や危機管理の重要性が高いと思われるためであり，研修を計画する教育委員会等の行政側もそのような意識を持っているためである。その意識を改善していくためにも研修の充実は不可欠である。

### ④継続的な実態調査及び研究手法の改善

本研究の対象は，千葉県高等学校保健主事会の研修に参加した保健主事に限られていた。学校は都道府県，市町村ごとにそれぞれ特徴があり，本調査の結果だけで保健主事の実態すべてが明らかにされたとは言えない。また，結果の分析が単純集計を中心としており，今後はより調査対象者を増やすことで，分析の質を高めていきたい。そのため，今後，大規模な全国調査等も必要であろう。現在のところ，最新の保健主事に関する状況調査についても2014年のものに留まっており，新学習指導要領の施行等に伴う最新の調査を行う必要があるだろう。

### ⑤教科「保健」及び他教科との積極的な連携

学校保健活動の充実はもちろんだが，高等学校においては，教科に主眼が置かれる傾向にある。しかしながら，学校保健活動と英語や数学等の主要教科と呼ばれる教科の連携は実施する内容を見ても，関連させることが難しくなっている。そのため，学校保健の内容と最も関連が深い教科「保健」との積極的な連携を推し進めることが重要であると考え。特に，高等学校において保健主事を拝命する人材は，約半数が保健体育科の教員であり，教科「保健」であれば内容だけでなく人材的な意味でも連携を考えることは難しい。学校全体のマネジメントを行うことが求められる保健主事ではあるが，生徒たちに学校保健活動の重要性を認識させるためには教科との積極的な連携は不可欠であろう。これについては『保健科教育法入門』においても「今後，保健科教育に関する計画の立案実施においても，保健主事の関与が必要となるだろう」<sup>14)</sup>と指摘されている。また，学校保健活動は，集団活動を軸とする特別活動，探究活動を行う総合的な学習・探究の時間との関わりが深い。特に，特別活動では，全校生徒の健康や安全につながる避難訓練等の取り組みがほぼすべての学校でこれまでも行われており，保健主事が積極的に関わることができる機会が設定されている。しかしながら，現在のところ，国語や数学，英語といったいわゆる主要な教科と学校保健活動の関わりを積極的に推進していくことは難しく，公民科の現代社会に関する授業の中に生徒たちの生活に関する内容が含まれているに留まっている。保健主事を担当している教員に教科「保健」の担当者が多くなっている点もここに関係していると考えらえる。

以上のような保健主事の実態調査とそこから見えた課題の解決が，教科「保健」の充実に寄与することができることを期待して，本研究の終わりとしたい。

## 注

- 1) 文部科学省「現代の教育に関する主な課題」（閲覧日：2020年8月4日）  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo7/shiryo/07081503/003.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo7/shiryo/07081503/003.htm)
- 2) 中央教育審議会：「子どもの心身の健康を守り，安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」（答申），中央教育審議会，2008年。
- 3) 徳山美智子・中桐佐智子・岡田加奈子『学校保健―ヘルスプロモーションの視点と教職員の役割の明確化―』東山書房，2008年。
- 4) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第45条3項は，「保健主事は，指導教諭，教諭又は養護教諭をもって，これに充てる」となっている。
- 5) 日本学校保健会『保健主事研修プログラム』日本学校保健会，2009年。
- 6) 文部科学省『保健主事のための実務ハンドブック』文部科学省，2010年。
- 7) 日本学校保健会『保健主事のためのマネジメント事例集』日本学校保健会，2012年。
- 8) 公益財団法人日本学校保健会『保健主事に関する状況調査報告書』公益財団法人日本学校保健会，2014年。
- 9) 谷藤千香・畑攻・森良一・今関豊一・小野里真弓「学校保健に関する政策論的考察：保健主事を中心とした学校保健活動に関する政策及びその取り組み」『千葉大学教育学部研究紀要』第63巻，千葉大学，pp.147-151，2015年。
- 10) 鬼頭英明「教育の危機管理保健主事と学校保健委員会」『週刊教育資料』教育公論社，pp.21-23，2018年。
- 11) 国吉恵一「危機管理における最善の行動と保健主事の役割」『月刊生徒指導』第49巻，学事出版，pp.22-25，2019年。
- 12) 鈴木裕子「今こそ見つめなおしたい養護教諭の原点：養護教諭が歩むひとすじの道」『子どもの健康』，労働教育センター，pp.89-95，2019年。
- 13) 谷藤千香・畑攻・森良一・今関豊一・小野里真弓，2015年，上掲書。
- 14) 日本保健科教育学会編『保健科教育法入門』大修館書店，2017年。

※本論文は第1章，第3章を藤原，第2章，第4章，第5章を国吉が執筆を担当した。

## The Study of Current Situation and Problems of Health Care Officials through the “Consciousness Survey on Health Care Officials”

—Aiming to be involved in school health activities and the subject “health”—

Keiichi KUNIYOSHI  
Yasuhiro FUJIWARA

The COVID-19 pandemic necessitates investigation into the actual situation of school health care officials to promote initiatives associated with school health activities and the subject “health.” In this study, we researched the actual condition of school health care services via a “Survey on the Status of Health Care Officials.” Additionally, we examined the ideal future functioning of health care officials and used that as basic material for promoting initiatives related to health nurses’ duties, such as school health activities and the subject “health.” The questionnaire survey helped clarify various problems of high school health nurses.

**Keyword :** Health Care Officials, school health, Consciousness Survey, school health activities, the subject “health”